

「地域農業を再生する
戦略的な基地として」

地域の活性化と農業振興を目的として平成21年に開業した「道の駅今井恵みの里」は地産地消に徹した事業に取り組み、市民や消費者の皆さんの信頼を得て松本市や地元今井地区の農業・農産物をアピールし、多くのリピーターを確保して農業振興を中心とした事業を進めています。とりわけ農業経営の中心を担う女性農業者や高齢者が「積極的につくって売る」という感覚を持ち、後継者が工夫した農業に取組み、農業に関心の薄かった若い嫁さん達も恵みの里からの情報提供に敏感に反応し、新たな農業の取り組みに意欲が窺え、生産活動が活発になってきています。農産物を仕入れ品揃えをして販売する単なる直売所では農家の所得確保や農業振興にはつながりません。新鮮で多様な情報を生産者に発信して農家が自ら生産を拡大していくと同時に消費者にもリアルタイムな農産物の情報発信をし、生産者と消費者の交流を

作り出すことがこれからの農業には必要です。また、これまでの農業に見られた「捨てる・腐る」農産物に付加価値を付けて反収や所得確保を図り、専業農家が「農業できちんと生活ができる」仕組みを作ることが後継者の育成や農業振興につながると確信をしています。「農家は作るだけ」の農業から脱皮をし、6次産業化等の新たな農業に取り組むことが今後の農業には必要です。「今井恵みの里」は農業生産法人を設立しました。更に、社会的な信用と認知を得て「農業の大切さ・食の楽しさ」を発信し、地域農業の再構築の一翼を担っていきたくと考えています。

今井恵みの里駅長（前農業委員）
犬飼 公紀



がんばっています

「農を楽しむ」

松本新規就農者育成対策事業七期生として三年目に入った。

葡萄圃場で約75a。最初は何をやってても五里霧中。何も知らない私たちに親切に教えてくれる方々にも出会えて有難い。

最近では、自分たちが何をしていいのか、何ができていないのかが少しずつわかり始めてきた。判りはじめてくると作業自体も楽しくなってくる。時間の使い方も有効に使えるようになってきた。

作業の合間には、季節の移り変わりを見るのも素晴らしい。時には圃場で山菜の天ぷらを楽しむ。普段でも、山の道具でお気に入りの雑炊を楽しむ。生後20年近くの老犬を軽トラの助手席に乗せて畑で自由に遊ばせる。毎日のように、浅間や扉で土地の人が行く温泉を楽しむ。雨の日には、大手をふってシネコンへ。早朝には山歩き、自宅の裏だから便利だ。時には美ヶ原ヘトレーニング。葡萄の収穫

が終わったら、家族で涸沢のナカマドを見て奥穂高へ。冬はスキー。こうしてみると、農は楽しい。

今後は、葡萄はデラウエアと黄華に集中する。

また、余事で獅子柚を植えてみた。うまく育てば…。この皮を使ったマーマレードは絶品で、今からワクワクしている。

こんな極楽トンボの私ですが、今後ともよろしくご指導ください。

松本新規就農者育成対策事業七期生

堀口雅代



畑でご主人と